情報リテラシーI演習1

3. 新規文書に次の文を入力しなさい。ファイル名IIA日付-学籍番号-課題3.docx

|  |
| --- |
| 病床削減で国が見せた本気度　※ワードアートを使いなさい政府は6月15日、2025年時点の病院ベッド（病床）数を今より最大で20万床減らす目標を示した。 独り歩きしがちな数字をあえて掲げたのは、それだけ病床削減に本気だからにほかならない。 今後10年間でこれまでの医療事情が大きく変わる可能性も出てきた。 なぜ内閣府なのか──（蛍光ペンと太字で強調しなさい）。そう疑問に感じた人も少なくないだろう。6月15日に政府が示した将来の病床推計。発表の場は、この種の推計でお決まりの厚生労働省ではなく内閣府だった。今回の病床推計をまとめたのは、内閣官房の専門調査会。過去の通例からは、極めて異例な対応と言える。 このあたりに、フリー素材の病院のイラストを文章回り込みで挿入しなさい。調査会は、2025年の人口推計や延べ3億人を超す患者の診療報酬明細書（レセプト）のデータから、将来の病床数の見通しを割り出した。2025年時点の必要数は115万～119万床と推計。このため、2013年の134万7000床から1割以上減らせると指摘した。 　数を減らすだけではない。現在は、手術や救急など集中的な治療に対応する病床が大半だが、今後はリハビリや在宅復帰に向けた支援を行う病床への転換を促す。長期療養患者向けの慢性期病床も減らす。入院先を減らす一方で、あふれることになる30万～34万人の患者は自宅や介護施設での治療に切り替える。 日本医師会は猛反発するが 　※見出し２を使いなさい都道府県別では埼玉、千葉、東京、神奈川、大阪、沖縄の6都府県で病床が不足するものの、残る41道府県ではすべて余ると予測した。西日本を中心に30％前後の削減を迫られる県も多い。 　この推計が明らかになると、日本医師会（日医）は6月17日の記者会見で政府方針を痛烈に批判。横倉義武会長は「必要な病床数は地域の事情によって様々で全国集計には意味がなく、納得できない」「一律に削減されるような印象を与えかねない推計は地域医療の現場を混乱させるもので非常に遺憾」などと、不快感をあらわにした。 網掛け部分を境界線有りの2段組みにしなさい。　また、中川俊男副会長も「推計に医療関係者がほとんど参画していないのに、医療・介護提供体制の改革そのものにまで踏み込んでおり越権行為だ」などと強く反発するコメントを発表した。 　もっとも、いつもは強硬な姿勢を崩さない日医にしては珍しく、この件についての批判はその後、沈静化しつつある。そこに、医療改革をめぐって今回生まれた新たな力関係を見て取ることができる。 　病床推計に至るまでの経緯は、これまでの医療政策の中でも異彩を放っている。 　国による病床削減の動きは今に始まったことではない。病床が多すぎると不必要な入院や長期療養が増えて医療費がかさみやすい。古くは1985年の医療法改正（第1次医療法改正）で、地域ごとに病床数の上限を定めた「病床規制」の仕組みが導入された。以来、病床削減へ向けた動きが続いてきた。 　その旗振り役は厚労省だった。これまでに何度か具体的な病床数の削減目標を示したこともある。ところがそうした数値目標を掲げての改革プランは、日医をはじめとする医療関係団体の強い反発に遭い、ことごとく頓挫した。医療界の利益と厚生行政は対立することが常なのだ。 だが、その状況に大きな転機が訪れた。第2次安倍政権が誕生して以降、政府は過去の失敗を繰り返さないことを意識してか、官邸主導で社会保障制度改革を進めることにした。 　2014年1月に安倍晋三首相を本部長とする社会保障制度改革推進本部を設置すると、同年8月にはその下に専門調査会を設けて、病床数や医療費適正化の目標を立てさせることにした。それが病床数を推計した調査会に当たる。 　実は、今回の病床削減推計は、調査会と厚労省の合作と呼ぶべきもの。というのも、推計は厚労省の検討会がまとめた計算式を基に算出しているのだ。 　だが、結果は調査会が公表した。厚労省の幹部は、「それは、もちろんこちらへ火の粉が降りかからないようにするため」と打ち明ける。実際、厚労省へ日医の怒りの矛先が向かうことはなかった。 　他方、日医にとって、盤石（ルビを振りなさい）な政権基盤を誇る今の官邸は非常に恐るべき相手。年末には政府裁断で2016年度診療報酬の改定率が決定するため、「今はいたずらに官邸を刺激しない」（日医幹部）という戦略を取る。だからこそ、今回の推計への批判も、深入りを避けたと言える。  |

表を作成し、本文中に貼りこみなさい。

表1 2013年時点の病床数と2025年推計値での増減数・増減率　注　▲はマイナス

|  |  |  |  |
| --- | --- | --- | --- |
| 都道府県 | 2013年の病床数（床） | 2025年の病床数（床） | 増減率（％） |
| 福岡 | 74,000 | ▲8,500 | ▲11.5 |
| 佐賀 | 13,500 | ▲4,400 | ▲32.6 |
| 長崎 | 23,300 | ▲6,500 | ▲27.9 |
| 熊本 | 31,800 | ▲10,600 | ▲33.3 |
| 大分 | 18,900 | ▲4,200 | ▲22.2 |
| 宮崎 | 16,500 | ▲5,400 | ▲32.7 |
| 鹿児島 | 30,600 | ▲10,700 | ▲35.0 |